



【今日のメッセージより】

神はどのように祈りに答えられるか？

- 1) **Understand that God does some things through prayer that would otherwise not be done.** 神は人の祈りを通してのみ、なさることがある、ということを理解しよう。
- 2) **Sometimes, God neither gives us the specific request that we make nor the desire that produced the request.** 神は願った具体的な事柄も、求めの根底にある心の願いについても、そのどちらに對しても答えようとなさらない時がある。
- 3) **Sometimes the specific request is given, but unhappiness results.** 神は私たちが願ったことをあえてそのまま叶えてくださることがある。しかし、結果は不幸せである。
- 4) **Sometimes the specific request is not given, but the desire is met!** 神は具体的な祈りに答えるかわりに、心の願いを叶えてくださることがある。
- 5) **Sometimes our deep felt desire and the expression of that desire in our prayer request are what will honor God and bless us. In that case, God grants both the specific request and the inner desire behind the request.** 私たちの具体的な願いと、その願いの根底にある、心の底にある思いそのものが神を喜ばせ、私たちの祝福となる場合、神はその具体的な願いも、私たちの心の願いも両方叶えてくださることがある。

★祈りの答えは常に神の「恵み」であることを覚えましょう。良いことを積み上げてその結果、何かを叶えてもらおうとする姿勢は神に喜ばれません。大祭司主イエスとイエスの十字架での御業が恵みの土台であることを忘れないようにしたいものです。

【先週のメッセージより】 マタイ16:13~26

救い主への期待と神の道

「あなたはわたしを誰だといいますか？」という質問に対してペテロは見事に「生ける神の御子、キリストです。」と答えきり、おほめの言葉をもらった。しかし、彼がイエスを心の底から「私の(MY) 救い主」と言えるようになるまでには、人を恐れてイエスを三度も全否定してしまうという自分の弱さが決定的に暴露され、自分の頑張りでは神に従うこともできないばかりか、救われないことを悟り、救い主を

必要としていることが知らされる必要であった。さらに彼がメシヤに期待した「苦難なき栄光」は根底から覆される必要があった。

【今週の暗唱聖句】ピリピ4：6～7

何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによってあなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

●ステップ1：回りは皆罪人であり、自分もその内の一人である。事故やケガ、災害もある。この世に生きている限り、思い煩いは山のようにある。だからこそこの命令がある。このような状況の中、神が全ての状況を把握されており自分も決して耐えることができない試練には会われないことを知っているの、キリスト者は先ず「感謝」することができる。

●ステップ2：難しい状況に遭遇したら(1)の感謝を持って何よりも先ずその煩いや問題について神に話すこと…これがクリスチャンの問題解決の第一歩である。

しかしここに戦わねばならない誘惑がある。と言うのは我々は見えない神に祈るより、すぐに「人」に相談を持ちかけたくなってしまいう性質を持っているのである。

●これが誘惑なのは①多くの場合、最初から自分が聞きたいと思っている答えがあるからである。そうすると違う答えを出す人の言うことは聞けず、願っている答えを出してくれる人に出会うまで次々相談相手を変えてしまう。

②相談の際、自分の非を隠して被

害者を装いたくなり、事実を曲げた物語を作ってしまう。このような誘惑に勝つことはなかなか難しく、問題はむしろ拡大する。

●更に、相談を受ける側も自分の煩いで忙しく人の煩いを背負い込む時間も心の余裕もないことが多い。しかし相談を受けるとなにかしてあげたいと思うから相談に乗ってしまう。ここにも問題拡大の種が潜む。なぜなら①時計を見ながら話を聞いていると、解決を急ぎたくなってしまふこと、②我々は問題の事実関係を全部は知りえないことと、③どんなに判断力が優れていても所詮、我々罪人の判断は不完全だからである。

●ステップ3：だからこそ、神は「人のところに行かず、先ずわたしの所に来なさい。」と命令されるのである。そうすれば人に相談しても決して得ることのできない「神の平安」が私たちの①心＝感情、②思い＝理性、この二つの領域に与えられ、仮にまだ問題が解決していなかったとしても、前に進めるようになるのである。

●ステップ4：実際にこの御言葉を実行し、平安を体験しましょう！